群教セ	E01 － 09
	平20.240集

保健管理における
保健行事の効率的な運営に関する研究
── 作業シートを用いた就学時健康診断の実践を通して ──

長期研修Ⅱ　研修員　田村　由香利

《研究の概要》

本研究は、保健管理分野における定期的に行われる各種保健行事において、多岐に渡る作業を整理してシート化することにより、行事の効率的な運営を目指した実践的研究である。見通しや目的、役割、作業内容等を具体的に示した３種類のシートを作成し、活用することで、保健行事の効率的な運営を可能にし、養護教諭が日常行う執務の時間を確保することができるなどの効果を目指したものである。

キーワード　【学校保健　保健管理　養護教諭　就学時健康診断　効率化】

Ⅰ　主題設定の理由

社会や生活環境の急激な変化は子どもの心身の健康に影響を与えており、学校生活における生活習慣の乱れやいじめ・不登校等の問題を招き、健康課題も多様化・深刻化してきている。そのため、保健室利用者数も年々増加しているが、その来室の理由は様々で、養護教諭が子どもたちの対応にかかる時間も増加している。こうした多岐にわたる健康課題に対しては、子どもたち一人一人と向き合いこたえることが養護教諭に期待されている。また、根本的な解決に向けては養護教諭のみならず、関係職員が連携を図り、子どもを多面的にとらえ、きめ細かな対応をすることが大切である。そのためには、いかに学校内の組織体制を充実させ、時間を確保するかが課題となっている。

養護教諭は日々の保健室経営の中で、時を選ばずやってくる子どもへの対応はもちろん、保健室登校の子どもへの継続した指導も行うなど、心の避難場所としての役割も担っている。さらに、突発的な怪我や病気に対しても、子どもの情報を十分に把握、理解し、確実な対応を行わなければならない。このような中で、養護教諭の多くは、時間的にも精神的にも余裕がなくなっている現状がある。

学校保健は、保健管理と保健教育から構成されており、それらを効果的に運営していくための組織活動がある。そのひとつの保健管理には、救急処置や健康相談等の流動的な職務や、計画的に行うべき健康診断等の各種保健行事がある。これらは、子どもの実態を把握し的確な対応を図るために重要な要素であり、子どもの心身の健康の保持増進を図ることを目的とした、学校保健の基盤とも言える。

こうした保健管理は、学校保健計画に基づき、学校内の組織体制を十分に機能させた上で、全職員で推進していくことを目指している。しかし、各種保健行事の集中する４、５月は、職員の異動を始めとした校内組織の変化と、年度始めの多大な業務が重なり、多くの職員がゆとりのない状況である。そこで、保健管理分野について一層の充実を図るため、各種保健行事を振り返り、次の２点を課題ととらえた。

○健康診断に代表される各種保健行事は、子どもの心身における健康の実態把握の場であるが、年１～２回のことが多く、関係職員の共通認識を図ることが難しい。

○養護教諭の職務は、その経験年数に関係なく果たすべき役割は同じであり、学校規模あるいは校種等で求められる役割や課題の優先順位も異なる。また、校種を超えた異動時には、各種保健行事を実施する際の運営が難しいことがある。

こうした課題をふまえた時、保健管理分野で定期に行われる各種保健行事を効率的に運営することで、時間的ゆとりを得て、養護教諭が精神的なゆとりを持って、健康相談や保健指導に臨むことができるのではないかと考えた。

そこで、各種保健行事に対応した作業シートを作成することにより、行事の効率的な運営が図れると共に、執務の繁雑さの解消などに効果が期待できると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

保健管理における各種保健行事を効率的に運営するための作業シート(以下シートとする。)を作成し、その有効性を検証する。

Ⅲ　研究の見通し

保健管理における各種保健行事において、行事の見通しや目的を明確にし、役割、作業内容等を整理したシートを作成し、作業内容を具体的に明示することで、職員が各自の役割を理解し、効率的に取り組むことができるであろう。

Ⅳ　研究の内容

1 基本的な考え方

(1)　保健管理における各種保健行事について

保健管理における各種保健行事は、学校保健の根幹をなすもので、学校保健法に基づき実施されている。これらの保健行事は養護教諭が中心となり､保健主事と連携を図りながら進められている。こうした保健行事は、子どもたちの心身の健康の実態把握の場であり、健康教育につなげ、教育活動として展開していくためにも不可欠なものである。さらにこれらは、救急処置や健康相談等の日常の流動的な職務とは異なり、計画に基づいて円滑に行われるべき職務である。

(2)　効率的な運営について

効率的な運営とは、作業を迅速に行うだけでなく、必要なことを具体的かつ計画的に行い、円滑に進めることである。

各種保健行事において効率的な運営を図るためには、以下の３点が重要である。

①　職員の共通理解･共通認識の下で、組織で取り組むこと

保健行事において、効率的な運営を行うためには、行事全体の計画を把握し、職員自身が作業を理解することが必要である。そこで、職員一人一人が行事の目的や計画を理解し、役割を自覚することができる作業シートを作成することにより、迅速に動くことができるであろうと考えた。

②　行事の目的達成に向けての職員の意識を高め取り組むこと

行事の目的を達成するためには、保健行事に対する職員の関心を高め、全職員で取り組むことが重要である。そして、計画的・具体的に行事を進めることで、全職員の連携が図られた効率的な運営がなされる。

また、子どもの現状を多角的にとらえ、把握する機会と自覚することで、行事全体の質の向上を目指すことも可能となる。

③　必要な作業を円滑に行えること

効率的な運営を図るためには、職員一人一人が行事の目的や計画の全体像をとらえ、自分のやるべきことを理解し、円滑に動けることが重要である。各種保健行事は定期に行う行事であるが、職員の異動や校内の組織編成の変更等があるため、年ごとに担当者が替わっても行事の運営が滞ることがないよう工夫しなくてはならない。

これら３点の条件を満たした作業シートを作成し、活用することにより、保健行事を効率的に運営できると考える。

また、効率的な保健行事の運営によって、時間的及び精神的な余裕を見いだすことにつながれば､今まで以上にとらえた子どもの実態を生かし、課題に対応することが可能である。つまり、一人一人の子どもと向き合う時間や、日常執務の保障が確保できるといった効果が期待できると考える。

2　シートの特徴について（図１）

(1)　シート作成にあたって

各種保健行事においては、学校毎に実施計画が作成されている。行事の運営については、その計画に基づき進めていくことが可能であるが、実際には一つの行事が運営されるまでには、日程調整や関係機関との連絡等の企画から運営・事後措置に至るまでの綿密な計画が必要となってくる。経験年数を重ねた養護教諭であれば、実施計画に基づき行事の要領を理解、把握することが可能である。また、経験の中から得た配慮事項を加味し、行事の質の向上に向け様々な工夫を図ることができる。しかし、経験の浅い養護教諭や他校種から赴任した養護教諭にとっては、実施計画のみで行事の細部まで理解、把握することは難しい。

養護教諭は、多くの学校では一人配置（複数配置あり）であり、４月から各種保健行事が次々に計画されている。そこで、学校保健活動の中心となる保健主事との連携を図りながら各種保健行事を進めていく上でも、職員への周知、徹底が短時間で合理的に図れるものが必要である。

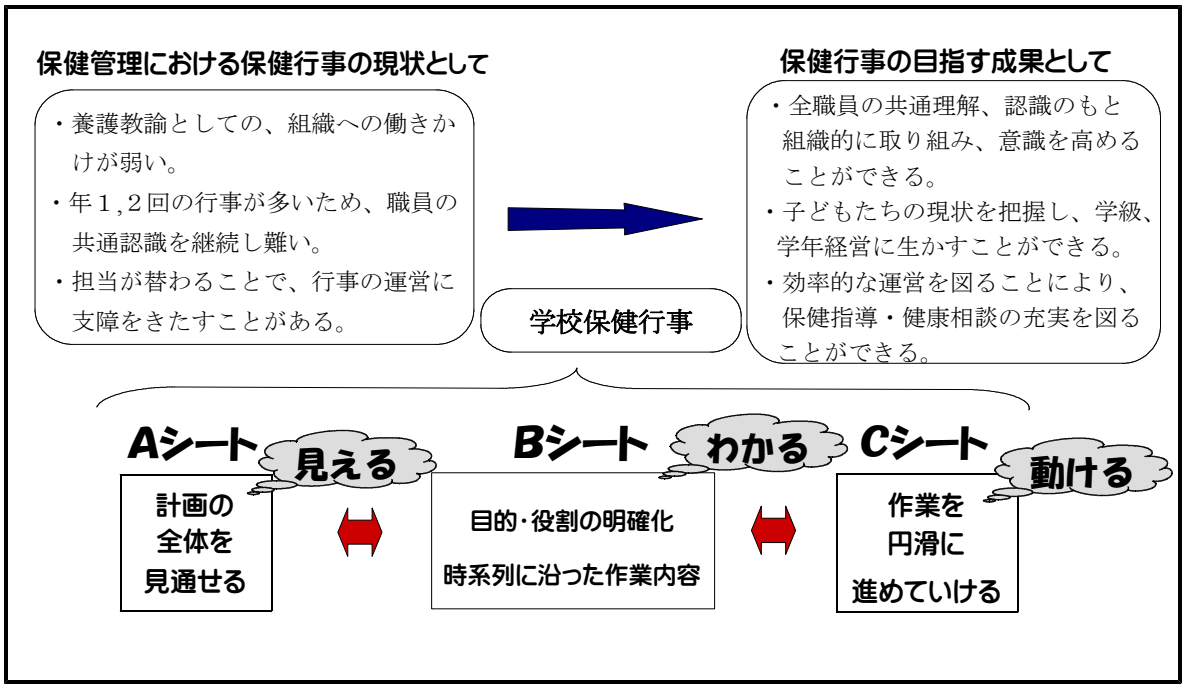


図１　研究構想図

(2)　シートについて（図１）

①　Aシートについて

既存の実施計画とは別に、行事全体の流れが見渡せ、見通しを持って作業に取り組めるものとしてＡシートを作成する。管理職や養護教諭などの運営の中心となる職員を横軸に、縦に時間をとって、「いつ」「誰が」「どんなことをするか」をフローチャート式として表す。こうした流れを企画及び事前準備から実施、事後措置までの１枚のシートにまとめ、行事計画の全体が見通せる「見えるシート」とした。

②　Bシートについて

Ｂシートは、既存の実施計画を整理し、行事の日程や内容、特に目的や役割を明確にし、作業内容を時系列に沿って示した。運営上の確認事項を設け、一人一人がそれぞれの役割を理解できるための「わかるシート」とした。行事の規模により、シートの内容が増えてしまうが、できるだけ精選し分かりやすくすることで、理解しやすいものとした。

③　Cシートについて

Ｃシートは、各担当職員の作業を円滑に進めるために、為すべきことを時系列に沿って具体的にまとめたものである。Ａシートに記載した運営の中心となる職員が行うべき作業を、時系列に沿って確認しながら進めるための「動けるシート」とした。「この項目については、この作業をすれば良い」という最小限の事柄について記載することで、作業が円滑に進むと考えた。

また、担当者が替わっても為すべきことを具体的に理解し、対応しやすい内容とした。

３　組織としての取組について

各種保健行事は、学級のみならず学年全体に関わるため、組織的に取り組むことが重要である。そのため、シートを使用して役割や担当を分担し明確にすることで、職員の意識を高め、連携を強化することにつなげたいと考えた。また、学校行事である各種保健行事は、検診や検査が並行的に進められるため、計画的に運営されなければならない。本研究では、就学時健康診断における作業シートを作成し、実践した。

また､新たな取組を組み入れる場合においても、Ａ・Ｂ・Ｃシートの活用により、調整や修正が容易に行えるものとした。

４　シートの改善について

実践を通して、シートの効果を以下の方法で調査する。また、意見を集約し、発見された問題点について改善策を講じ、シートの修正を行い改善していく。

〇職員アンケート
〇聞き取り調査
〇他者評価

Ⅴ　研究の展開

１　実施計画

対象児童	就学時健康診断（平成２０年１０月２１日）	
協 力 校	○○市立○○小学校	
活動内容	事前調査	就学時健康診断に関するアンケート調査の実施（職員） 現１年生保護者に入学時の不安について調査（保護者）
	実　　践	就学時健康診断（保護者を対象にした新たな取組を含む） （運営委員会、職員会議、打ち合わせ会議、事前準備、当日、事後処理等）
	事後調査	就学時健康診断実施後のアンケート調査の実施（職員） 各係担当責任者の聞き取り調査（職員）
期　　間	平成２０年９月中旬～１０月３１日	
職 員 数	３７人	

２　検証計画

	検証の観点	検証の方法
①Ａシートについて	・各自が、就学時健康診断の流れを把握し、見通しをもって作業に取り組むことができたか。	聞き取り調査 アンケート調査 調査用紙の記述
②Ｂシートについて	・就学時健康診断の日程や各係分担の役割と時系列に沿った作業内容を明示することで、職員が各自の役割と各係分担の作業内容を理解して、取り組むことができたか。	
③Ｃシートについて	・就学時健康診断の各係分担の作業を進めるために作業内容を具体的に明示することで、為すべき作業を落ち度なく進めることができたか。	

Ⅵ　実践の結果と考察

１　就学時健康診断でのシートを活用した実践

就学時健康診断は、翌年度就学を予定している幼児を対象に、毎年10月から11月に実施される行事である。限られた時間の中で、様々な検診や検査を円滑に行う必要があることから、シートを活用した実践を試みた。

２　Ａ･Ｂ･Ｃシートの活用

(1)　実践の概要

①　Ａシート

図２で示した運営の中心となる職員（校長・教頭・教務主任・養護教諭・特別支援学級担当・各係主担当者）に限らず、全職員に配付することにより、行事全体の流れの共通理解を図った。Ａシート（図３）は事前の準備から事後までの作業を１枚にまとめたことにより、「どのような手順でいつ頃何をすればよいか」見通しを持つことができ､計画的に作業を進めていく上で有効であった。初めて運営の中心となった職員からは「長期的な見通しが持て、役立った。」という声が聞かれた。

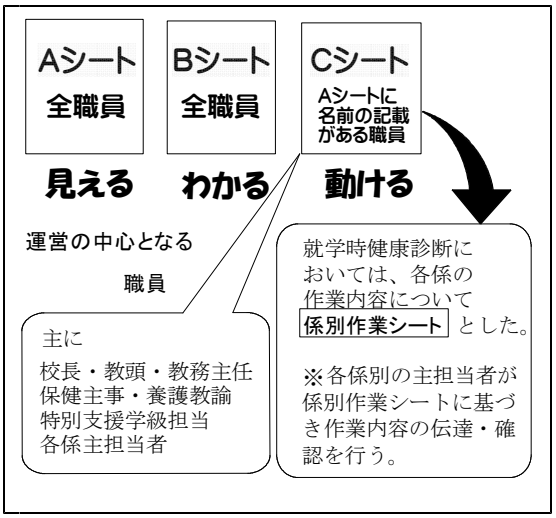


図２ 運営の中心となる職員

特に協力校では、行事の中核となる養護教諭の経験が浅く、取組への不安が大きかったが、シートを参考にすることで自分自身の役割や仕事の手順を理解し、見通しを持つことができた。そのことにより、ただ漠然としていた就学時健康診断について、細部に渡った内容を順序立てて理解、把握していこうとする姿が見られた。

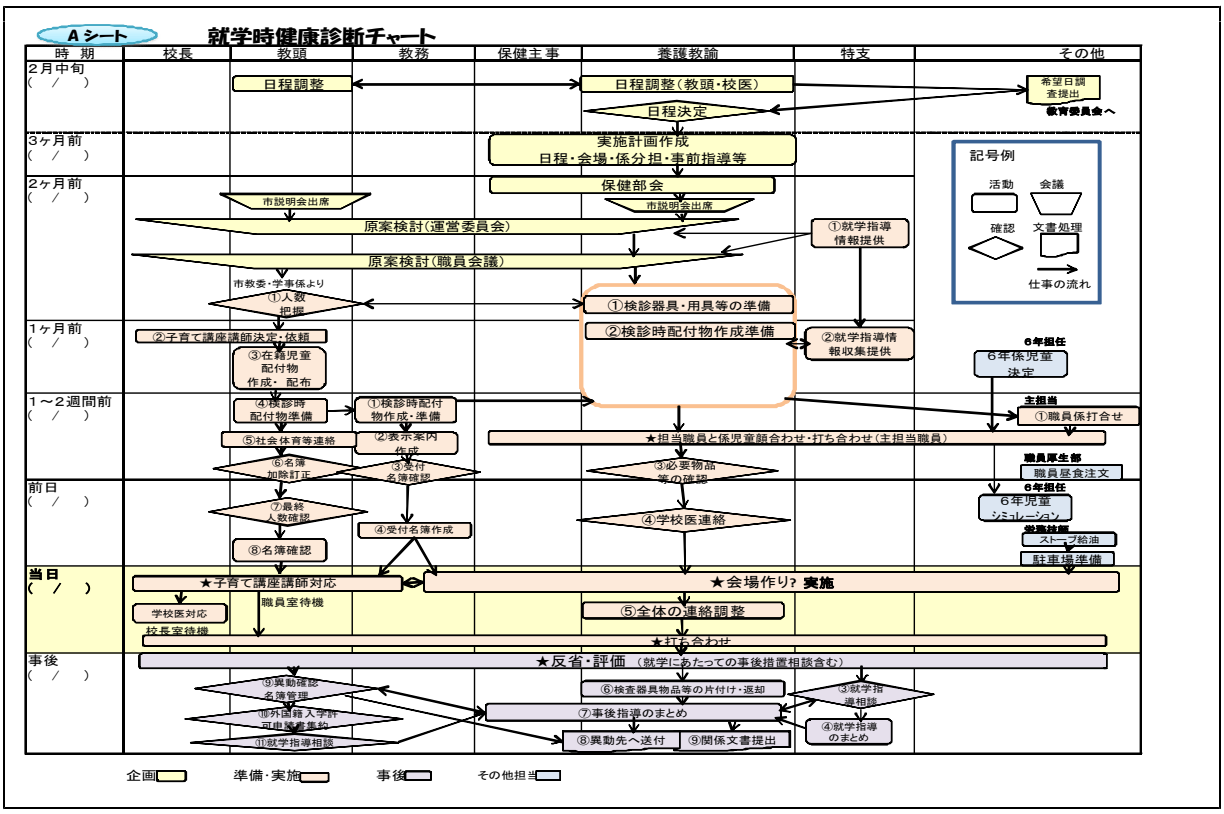


図３　Aシート

② Bシート

Ｂシートは、従来使用していた実施要項を整理したもので、Ａシートと同様全職員に配付した。就学時健康診断の内容を全職員が共通理解することを目的としたものである。この行事は学校全体で取り組むことから、Ｂ－１、Ｂ－２、Ｂ－３、Ｂ－４という形に整理した。

Ｂ－１：日程・目的・確認事項及び当日の動き

Ｂ－１（図４）は上記事項をまとめ、行事の柱となるもので、目的や確認事項を明示し、配付時に説明を強調することで意識化を図った。また、新たな取組の一部として「笑顔・挨拶、温かな対応」というスローガンを設け、職員の気持ちを一つにし、就学時健康診断を子どもと保護者が初めて学校に来る“出会いの場”ととらえた。

Ｂ－２：就学時健康診断の流れ及び会場図

Ｂ－２は、就学時健康診断の各検診や検査会場と順路を表し、流れを確認した。

Ｂ－３：係担当者及び仕事内容一覧

Ｂ－３は、職員一人一人が、どこでどのような作業をするか、また、必要物品や係児童の分担にはどのようなものがあるかを整理し、記載した。

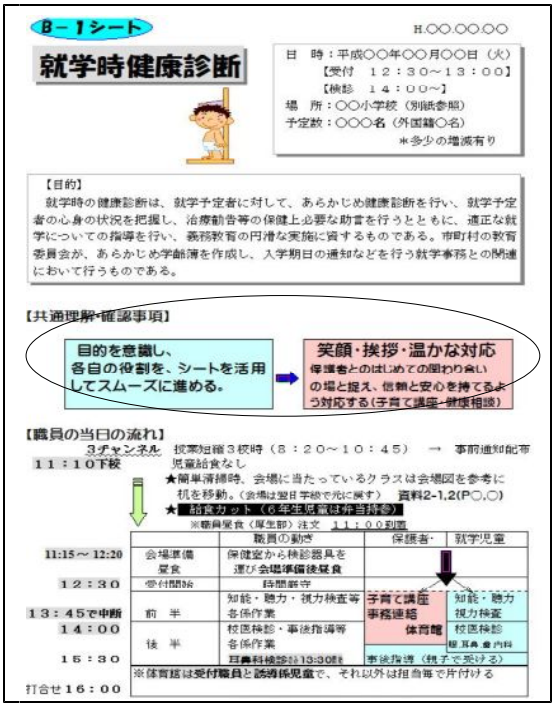


図４　Bシート（Ｂ－１）

このシートにより、自分が「どこで、誰と、どんな作業内容の係を担当するのか」といった各自のやるべきことを確認することができた。

Ｂ－４：職員タイムスケジュール

Ｂ－４は職員一人一人の動きをタイムスケジュ

ール化（図５）したものである。個人が複数の係分担を受け持っても混乱しないよう、個々の動きを時間で理解し、行事当日の職員の動きが一目で分かるものとした。事前に目を通し、行事全体の流れや個々の役割と動きを把握するため活用した。複数の職員から「動きが分かりやすかった。」という感想があり、役割を理解するために有効であることが分かった。

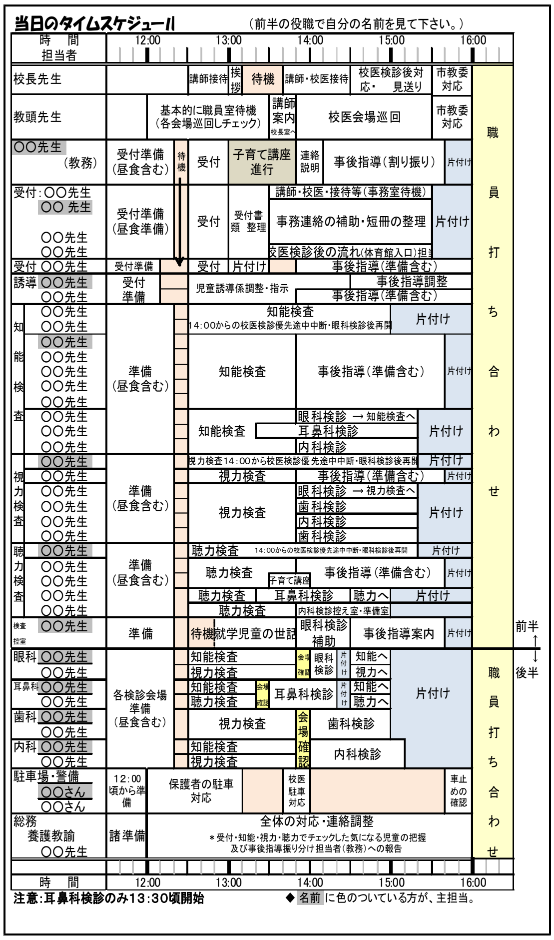


図５　Bシート（B－４）

③　Cシート

Aシートの流れに連動させ、項目毎に作業内容を具体的に記し、Aシートと並行して活用した。Aシートにより、いつ頃から作業に取りかかればよいか理解し見通しを立て、Cシートにより具体的に作業に取り組んでいくという流れである。中心となる職員のみに配付し、各担当者が期日を書き込み、作業内容を時系列に沿ってチェックしながら進めていった。備考欄に加除訂正等気づきを記入し、修正の手立てとした（図６）。

就学時健康診断　Cシート【担当：養護教諭】　【事前用】2

時期	項目	チェック	作業内容	備考
2週間前 10/7(火)	□係児童との打ち合わせ	√	各主担当者と養護教諭との打ち合わせ実施終了	10/10(金)ま
		√	係児童役割分担の決定及び児童用作業内容のプリント作成	10/3(金)まで
		√	10/10(金)13:25～係児童と主担当者の顔合わせ会設定(日程調整)	
1週間前 10/14(火)	□最終人数確認		教頭先生と転出及び転入の確認、最終人数の確認	
	□職員係打合せ	√	~~15:50~~係打合せの放送(打ち合わせ場所の確認) 16:00	放送
	□表示案内	√	昨年度使用して使えるものは、そのまま使用 児童玄関	への案内→
		√	不足は教務主任に依頼	
	□必要物品	√	各係毎に物品をわけ、表示	
	最終確認	√	チェック用紙入れ封筒作成	
前日 10/20(月)	□最終人数確認		教頭先生と転出及び転入の確認、最終人数の確認	~~145人~~ 138名 (受付番号139まで)
	□学校医事前連絡	√	内科・眼科・耳鼻科・歯科 各校医に電話 耳鼻科10分遅れ (日時、予定人数、駐車場所を確認)	
	□会場準備(体育館)	√	給食準備時間にシートを敷き、昼休み時間に椅子並べを実施	
	＊(6年担当) 昼食前に全て準備。	√	椅子、机を拭かせる	
		√	椅子に番号をつけさせる	
			写真を参考に会場を設定(体育館)	
	□6年児童 シュミレーション実施	√	6年担任と一緒に一連の流れを一緒にまわり説明確認 昼休み中に[illegible]	職員会 [illegible]
	前日準備の確認	√	前日準備の各担当者に確認の声かけ	
		√	・子育て講座(資料・事前連絡)教頭	
		√	(会場・必要物品)教務主任	
		√	・ストーブ、駐車場　労務技師	

図６　Cシート

(2)　結果と考察

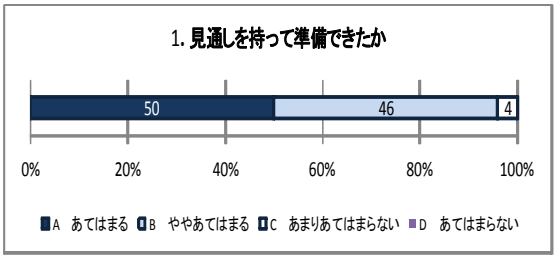
①　Aシート

行事全体の流れを見通せるAシートを作成したことで、養護教諭をはじめ行事運営の中心となる職員が計画的に作業を進めることができた。特に、「いつ頃からどんなことを始めたらよいか」や「誰と調整して進めていけばよいか」などが明確になったことで、中心となる職員の意識が高まり、連携が図られた運営となった。以前は養護教諭から声掛けをし、一つ一つ確認しながら準備を進めていたが、今回はシートを活用し担当者間で声を掛け合う場面も見られ、各自が自らの役割を意識して取り組めたと言える。

また、Aシートにより行事の全体像が見えることで、中心となる職員からより効率的な運営に向けての担当者の変更や、作業の振り分け等の意見も聞かれ、改善の手立てへと活用の幅も広がった。行事全体の規模や準備開始から終了までを把握、確認し、仕事の見通しが持てたことが、担当者の安心につながった。この時期は、遠足や社会科見学・マラソン大会や学校保健委員会など、他の行事と並行して準備を進めていかなければならない。こういった状況においても、手順を明示したAシートを活用することで、計画的に準備を進めることができた。実践後のアンケートでは、「見通しを持って準備できたか」という質問に対して、表１にあるように職員の50%が「A：あてはまる」との回答であった。その内訳を見ると、運営の中

心となる職員全てが「Ａ：あてはまる」と回答していた。これにより、養護教諭だけでなく他の職員においても必要性のあるシートとなったことが分かった（資料１）。

表１　職員のアンケート結果①

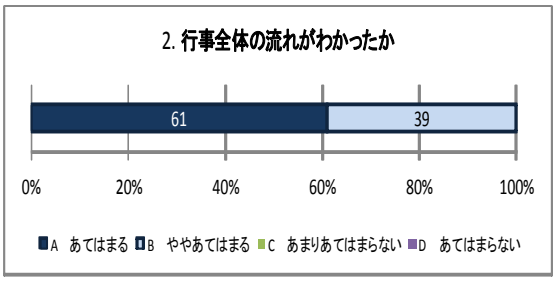


資料１　職員のアンケート結果

・長期的な見通しが持て、初めての職員にとって、とても役立った。
・中心になって仕事を進める管理職や養護教諭にとって安心できるシートとなった。

行事実施後の職員アンケート結果からは、「Ａシートにより行事全体の流れが分かったか」という質問に対し、約61％の職員が「Ａ：あてはまる」との回答であり（表２）、そのうち運営の中心になる職員は全て「Ａ：あてはまる」と回答していた。

表２　職員のアンケート結果②

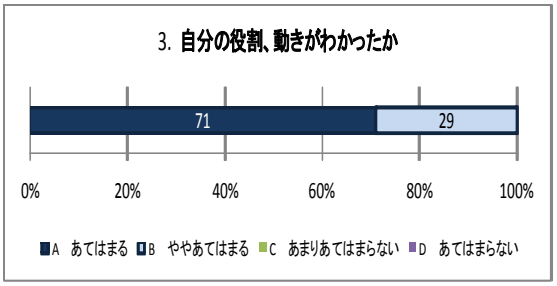


このことから、運営の見通しをもつことは効率的な運営のために重要であり、運営の中心になる職員にとっては特に必要なものであったと言える。それは、見通しの持てるＡシートにより、日常の作業を進めながら並行して就学時健康診断の準備を進めていくことができたからである。資料１の「安心できるシートとなった。」との感想がみられることから、精神的な余裕を生み出すことにつながったと言える。また、運営の中心となる担当者が替わっても、行事を企画運営していける基となった。しかし、自分の担当のみを行えばよい職員にとっては、Ａシートの必要性を感じていない声もあった。Ａシートについては、配付時期を早めたり、パソコンの校内掲示板に掲載するなど、職員の意識を高めるための活用方法の工夫が必要である。

②　Ｂシート

目的や共通理解の項目を明示し、時系列に沿った個々の役割を、タイムスケジュールとして提示したことは、行事の中での自らの動きが分かると同時に、他の職員の動きも見えることから、一人一人が責任を持って役割を担当することができた。「目で見て分かり動きやすかった。」との感想が複数の職員から寄せられた。「自分の役割、動きが分かったか」という質問で、「Ａ：あてはまる」と答えた職員が約71％であったことからも、シートが有効であったと言える（表３）。

表３　職員のアンケート結果③



実際には、検診・検査の流れが滞っている担当箇所に手の空いた職員が援助に入り、臨機応変な対応を行うなどの場面が見られた。このことは、職員の意識が高められ、連携を図ることにつながったためと言える（資料２）。このような迅速な対応が図られたのは、職員の共通理解・共通認識の下、円滑に行うことができたからである。

資料２　職員のアンケート結果

・就学時健康診断は、なかなか予想もつかないこと（全体人数の増減や校医の先生の都合など）があります。シートは細かく時系列で動きが示されていて、役立ちました。特に日程の後半は、状況が色々で、臨機応変に動かなければならず、その際にシートが役立ちました。

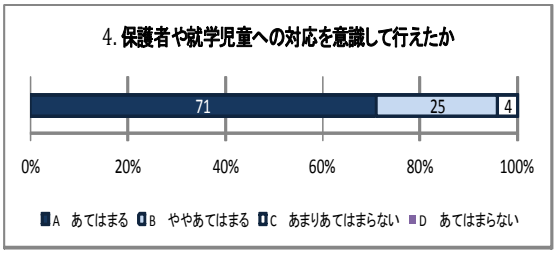
シートについては、その内容を精選することで、職員のシートに対する共通理解や確認がより確実になることが分かった。中心となる職員が的確に

他の職員と連携を図ることで、生まれた時間的余裕を生かし、養護教諭が細部に渡った対応を為すことが可能となり、結果として効率的な運営が図られることとなった。

実施にあたっては、受検人数の変更や校医の交代あるいは、検診開始の時間変更等突発的な事態への対応も必要である。今回、当日の校医の交代や検診道具の破損など､不測の事態も発生したが、職員一人一人が為すべき事を把握していることで、養護教諭がゆとりを持って対応することができた。また、今回準備した資料の内容が一部重複しており、「資料の量が多く、自分の分担だけをすればよい職員にとっては煩雑かもしれない。」という職員の声も聞かれた。必要な資料を簡潔に分かりやすくすることで活用性も高められると考えられる。さらに、必要な担当者だけが見ればよいものについては、別にまとめたり必要な担当者のみに配付する等の工夫により、行事に対する意識や理解を深められる。今回のシートはまだ十分でないが､「自分の役割は何であるか」そして「どのように動けばよいか」を理解できるものであったことから、昨年より受検数が約20％増の就学時健康診断であるが、おおよそ同じ時間で終了することができた。

また、この他の成果として今回の就学時健康診断を「子ども・保護者との出会いの場」ととらえ、保護者への構成的グループエンカウンターを取り入れた取組において、担当者の決定や調整にシートを役立てることができた。「笑顔・挨拶、温かな対応」というスローガンにおいても、シートを整理し明記したことで、職員が共通理解・共通認識の下、意識して取り組めた（表４・資料３）。

表４　職員のアンケート④



資料３　保護者のアンケート結果

・お兄ちゃんやお姉ちゃんたちが、親切に丁寧に面倒をみてくれて、とても助かりました。先生方も親切で優しそうな印象を受けました。
・入学の不安が少し和らぎました。

③　Cシート

運営の中心となる職員にとっては、就学時健康診断をどのように進めていったらよいか分からなかったが、Ａシートの項目に沿って進められるＣシートを活用することで、順序立てて作業を進めることが明確になったことが資料４のとおり分かった。特に「具体的にイメージしやすかった。」という感想からも、Ｃシートの果たすべき役割が整理されていたことが分かる。

資料４　職員のアンケート結果

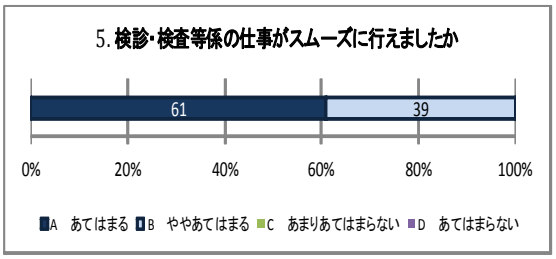
・順を追ってやるべきことが分かった。
・細かい項目でチェックでき、具体的にイメージしやすかった。
・養護教諭・教務主任にとって、動きが分かりやすかった。

また､やるべき内容を具体的に記述することで、迷いや悩みの軽減化を図ることができ、迅速に作業を進めていけるものとなった。具体的に記述することで、初めての担当職員であっても作業を進めていけるシートとなった。このことは、Ａシート同様担当者が替わっても円滑に進めていけると確認できた。

④　全体を通して

今まで活用していた実施要項を、行事を初めて行う養護教諭の目線でＢシート（わかるシート）として内容を整理した。同時に、その前に全体の計画を見通すためのＡシート(見えるシート）を作成した。このシートは、一つの行事計画の全体像を見ながら、行事の運営の中心となる職員が役割を自覚し、事後まで責任を持って計画的に取り組めるシートとなった。さらに、具体的に動けるＣシートを組み合わせたことで、養護教諭はもとより運営の中心となる職員にとっても、日常の仕事を行いながら並行して作業を進める上で有効であることが分かった。このように、保健行事の役割分担を明示することで、それぞれが自分の役割を理解することになり、表５の結果から、検診検査の効率的な運営につながることが検証できた。

表５　職員のアンケート⑤



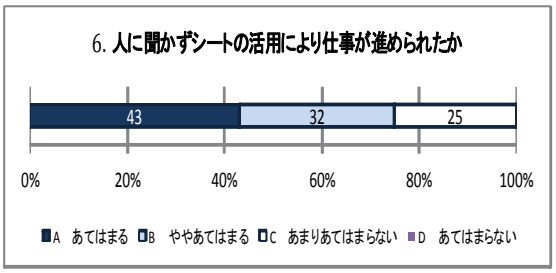
また、保健行事において、「見える・わかる・動ける」Ａ・Ｂ・Ｃシートの活用により、表３の結果からも、職員一人一人が役割を理解し、目的意識を高めた取組となった。これにより、職員の共通理解・共通認識の下、連携が図られた組織的な取組となり、為すべきことが円滑に行われ、効率的な運営を行うことができたことが分かる。このことは、保健行事の充実に向け成果があったと言える。

(3)　Ａ･Ｂ･Ｃシートの改善について

①　職員アンケート集計結果より

シートの活用は、検診検査等の作業を進める上では有効であった。ただし、「人に聞かずシートの活用により仕事が進められましたか」という質問では「Ｃ：あまりあてはまらない」と答えた職員も、25％であり（表６）、今回の行事において運営の中心でない職員の回答であった。

表６　職員のアンケート⑥



就学時健康診断では、一人が複数の担当を受け持つことから、Ａ・Ｂ・Ｃシート＋αの形式となり、＋α（係別作業シート）の部分において動きやすくイメージがもてるような写真の挿入などの工夫が必要であった。全ての職員が効率的に動けるためには、運営の中心となる職員がいかに作業を理解し動けるかということがポイントである。初めての担当者が分かるものを作成しておくことで、人が替わっても滞ることのない行事運営につながっていく。

また、余裕を持った着手日の設定と、いつまでにやり終えるかを記入できる欄を設け、見通しをもつことも効率的な運営のために必要である。

②　修正・改善について

以上の結果をふまえ、保健主事と改善策を講じ校内保健部会で修正・検討し、次年度に生かしていく。

③　改善し作成したものについて

【改善したものの一部紹介】

○Ａシート（図３）については修正したものを掲載したが、改善点は次の通りである。

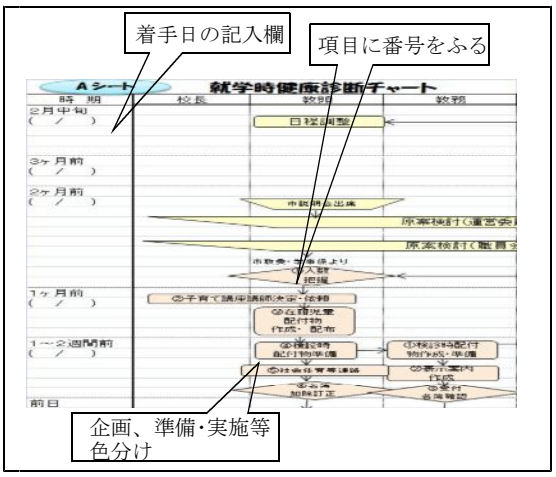


図７　Ａシート

○Ｂシートについては、全体の流れを表示し、自分の動きと合わせて見られるようにした。

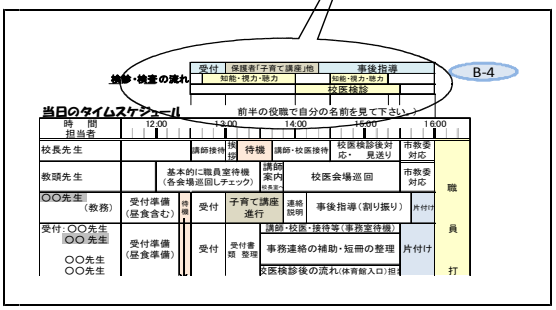
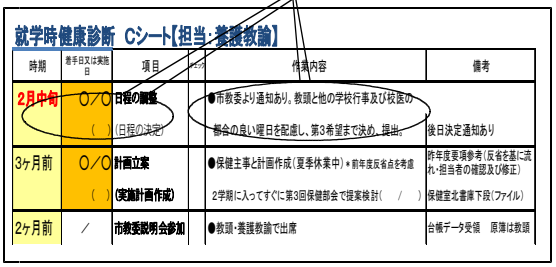


図８　Ｂシート（Ｂ－４）

○Ｃシートについて、項目毎に期日記入欄を設け作業内容や注意事項を具体化した。



就学時健康診断　Cシート【担当：養護教諭】

時期	着手日又は実施日	項目	作業内容	備考
2月中旬	０／０ （　）	日程の調整 （日程の決定）	●市教委より通知あり。教頭と他の学校行事及び校医の都合の良い曜日を配慮し、第3希望まで決め、提出。	後日決定通知あり
3ヶ月前	０／０ （　）	計画立案 （実施計画作成）	●保健主事と計画作成（夏季休業中）＊前年度反省点を考慮 2学期に入ってすぐに第3回保健部会で提案検討（　／　）	昨年度要項参考（反省を基に流れ・担当者の確認及び修正） 保健室北書庫下段（ファイル）
2ヶ月前	／	市教委説明会参加	●教頭・養護教諭で出席	台帳データ受領　原簿は教頭

図９　Ｃシート

Ⅶ　研究のまとめ

1　成果

(1)　全体を通して

本研究では、シートを作成し活用することにより、保健行事の効率的な運営を目指した。この研究を通して、次のことが明らかになった。

〇職員一人一人の役割を明確にし、作業内容を具体的に示すことで、職員の意識が高まり、連携の図られた組織的な取組となった。職員が自分のやるべきことを具体的に理解したことで、迅速に動くことができ､効率的な運営を行うことができた。

〇行事全体が見通せるシートにより、行事運営の中心となる職員が、自覚を持ってリーダーシップをとり、円滑に行事を運営することができた。

〇保健行事においては、養護教諭の経験から記憶し蓄えられていることが多いが、保健行事をシート化し、目に見える形としたことで職員、養護教諭双方にとって、為すべき事が円滑に行えるものとなった。

(2)　効果としての一例について

シートの活用により、時間的及び人的調整を行い、保護者との双方向の関係づくりのため、今回の就学時健康診断では、子ども・保護者との関わり合いのスタートととらえた取組を行った。

小学校では、６年の間子どもや保護者との関わり合いは続き、特に最初の出会いはその後にも大きく影響する。様々な健康課題の解決のためには、学校と家庭、すなわち職員と保護者の関係が良いものでなければならないと考え、次のような取組を試みた。

〇全教職員確認事項として、「笑顔・挨拶・温かな対応」をスローガンとして実施・対応

〇保護者の安心感を高めるためのグループワークの実践

このことについて、下記の順で取り組んだ。

①現１年生保護者に対するアンケート調査の実施

②アンケート結果をふまえた「子育て講座」の企画・運営

③構成的グループエンカウンターを取り入れたグループワークの導入による保護者同士の人間関係づくりの支援

こうした意図的な取組を行うことにより、保護者との良い関係づくりのスタートとして行事を運営することができた。また、保護者の思いに目を向け、気持ちに寄り添うプログラムや、アンケート結果を考慮した講話を工夫することにより、資料５にあるように「知らない人が多い中、緊張が解けました。」「チャンスがなく話せなかった人とも話せて良かったです。」といった感想もみられ、保護者間の交流により、不安を軽減する一助になったと言える。グループワークについては現１年学年主任が担当し、児童の現状を踏まえた話を中心に進行することで、保護者の不安を軽減することもできた。

資料５　保護者アンケート

・いつもと違った趣向を考えていただき感謝しております。知らない人が多い中、緊張が解けました。

・同じ幼稚園でも、チャンスがなく言葉を交わせなかった人とも話せて良かったです。全く知らない人とも「横のつながり」を意識しておつきあいを広げていきたいです。

2　課題

〇シートについては、今後も活用する中で、計画、実施、評価について、改善していくことが必要である。また、活用の機会を広げ、関連するその他の保健行事においても、同一の形式でシートを作成し､より効率的な運営を図ることが必要である。

〇シートを保健部職員を中心に活用し、学年に周知・徹底を図っていく等の活用方法の工夫を図ることで、さらに連携を強化した組織的な運営を目指していきたい。

〇保健管理における各種保健行事の効率的な運営を図ると共に、シートを介在させることでさらに養護教諭としての力量を培っていきたい。

〈参考文献〉

・『就学時の健康診断マニュアル』財団法人　日本学校保健会（2002）
・森　昭三　著『変革期の養護教諭』(2002)
・編著　徳山　美智子　中桐　佐智子　岡田　加奈子『学校保健―ヘルスプロモーションの視点と教職員の役割―』　東山書房（2008）
・『学校保健活動推進マニュアル』 財団法人　日本学校保健会（2003）
・高橋　伸二・八巻　寛治　編著　『保護者会で使えるエンカウンター・エクササイズ』ほんの森出版（2003）